

## 着装によって生起する場違いの意識と服装行動との関連性

○ 土井 千鶴子      大林冷子\*      中川早苗\*\*  
 (姫路工大      \* 芦屋女子短大      \*\* 奈良女子大)

目的 これまで着装によって生起する恥ずかしさ意識や快活さ意識について研究を行ってきたが、今回は恥ずかしさ意識を構成する因子の一つである場違いの意識を取り上げ、その構造を明らかにするとともに服装行動との関連性などについても検討する。

方法 まず自由記述法により、女子学生を対象に、「場違い感を生起する服装」について意見の収集を行い、整理・分類して40種の服装を選定した。この40種の服装についての質問項目をもとに予備調査を行い、因子分析によって20項目の場違い意識測定項目を求めた。本調査では279名の女子学生を対象に、場違い意識測定尺度20項目、およびこれと合わせておしゃれ志向尺度15項目、服装規範尺度15項目、好みの服装18項目、ライフスタイル28項目について5～7段階で評定を求めた。調査時期は2000年12月である。分析には相関分析の方法を用いた。合わせて被験者の場違い意識項目の合計得点を求め、得点数の高・低のグループ間で服装行動やライフスタイルに違いがあるかをみるためにt検定を行った。

結果 着装によって生起する場違い感の意識は、第1因子(フォーマルな場所に普段着の服装)、第2因子(公的な場所に肌の露出する服装)、第3因子(機能性を無視した服装)から成る。相関分析結果では、場違い感の意識は服装規範意識と正の相関が認められた。おしゃれ志向意識、好みの服装およびライフスタイルとの間にはほとんど関連は認められなかった。また服装規範意識項目の合計得点が高いグループは、低いグループに比べ、場違い意識を構成する3因子全てについて評定平均値が高く、有意差が認められた。